

百年——経ってしまった

時の流れは早く

世の中はみんな変り果てた

然し彼の墓は

小高い丘の上に残っている——

雑然とした秋草の中に

今宵も

虫が悲しそうに

啼いている——

そして

宵闇をぬらしながら

絹糸のような

小雨が

彼の霊を弔うかのように

ひっそりと彼の墓のあたりに

しめやかに降り注いでいる——